

「テーマ・編集・プロデュース」

館長就任にあたって

博物館に限らず、魅力的な文化施設というものは、一度利用した人が再び利用したい、あるいは訪れたいと思う。魅力の要素は、施設のテーマや内容がもたらす知的刺激や美的感動ばかりでなく、スタッフの応対や建物・空間の心地よさから、イベントやショーアップなどの付随する楽しみにいたるまで、人によりさまざまであろう。

私は、ミュージアムがその存在価値を高めるためには、三つのことが大切だと考えている。第一に、設立の思い・志の強さであり、そこから明確なテーマが生まれる。第二に、テーマにそったモノと情報の収集と編集である。集めた素材を活かすものは優れた編集力にはかならない。第三に、利用者・社会への魅力的なプロデュースつまり効果的な発信である。

大阪商業大学商業史博物館は、これまで「近世大阪の商業」を中心テーマに、大学の施設らしく「活動し、研究する博物館」というスローガンを掲げ、着実に特色ある活動を展開してきた。收藏品やネットワークを活かした博物館独自の展示会はもちろんのこと、本紀要をはじめとする各種印刷物の発行やインターネットホームページによる発信、歴史や地域をテーマとした研究会・講演会・セミナー・シンポジウム等の開催により、質の高い多彩な情報発信を行っている。

さらに東大阪市の文化団体との交流や小学校への出前授業等を通じて、親しまれる博物館づくりを進め、地域社会へも積極的に貢献している。

館長就任にあたり、当博物館のよき伝統を受け継ぎ、大学博物館としての価値をいっそう高めるとともに、開かれた博物館としてより多くの方々にご利用していただけるように、さらに魅力をアップすべく微力を尽くす所存である。皆様の暖かいご支援・ご協力を心からお願いしたい。

